“ユーラシア諸民族の歴史と文化に関する人類学的研究”

教授　大野　旭（楊海英）（文化人類学）

1964年9月生まれ、1994年総合研究大学院大学博士課程修了、1995年関西外国語大学講師、1999年静岡大学人文学部助教授、2006年静岡大学人文学部教授 etc
2011年より第1期卓越研究者、2016年より第3期研究フェロー

研究概要

私はモンゴル系諸民族の近現代史を「中央ユーラシア遊牧民族史」という縦の歴史軸と「国際関係」という横の脈絡の中で再構築してきた。モンゴルに伝わる古文書と口伝資料を駆使し、チンギス・ハーンを開祖と見なす諸集団が13世紀から維持してきた「チンギス・ハーン祭祀」に注目。また、「シルクロード草原の道」に位置するアルジャイ石窟内の仏教文化の年代と性質を特定する際は、考古学的な成果だけでなく、出土文書と民間伝承の分析法も駆使し、遺跡はモンゴル帝国期のものであることを突き止めた。同石窟は現在中国の重要文化財に指定されている。次に、モンゴル人が如何に日本統治時代を経験し、近代化の道のりを歩んできたかを現地の視点から再現している。モンゴル人が日本と特殊な関係を創成してきたがゆえに、中国文化大革命期にはジェノサイドの対象とされた。著書『墓標なき草原』は日本で版を重ねているだけでなく、モンゴル語と中国語にも翻訳刊行され、英語版と韓国語版も進行中である。目下、『内モンゴル自治区の文化大革命』資料シリーズの編集公刊に携わり、計８冊上梓した。

北魏時代からモンゴル帝国期にかけて栄えたアルジャイ石窟。シルクロード草原の道に位置。女神を称賛するサンスクリットとチベット語、モンゴル語による題辞が有名。

メッセージ

モンゴルといえば、大相撲で活躍する力士たち、そして果てしなく広がる草原というイメージがあろう。あるいは13世紀にチンギス・ハーンが大帝国を創建した、と歴史が好きな方々にとっては、常識であろう。どちらも正しいが、近代に入ってからモンゴル人が住む地域の一部、南モンゴルと満洲は日本の殖民地になったことの方が、より身近な出来事ではなかろうか。モンゴル出身の私は、いわば旧宗主国で仕事していることになる。日本が近代において創出したさまざまな文明的な装置は、アジア、いや世界に通用するものが多い。科学技術だけでなく、思想や哲学といった人文社会科学の知識もユーラシア世界では高く評価されている。ただし、アジアは決して東南アジアだけが「亜細亜」ではなく、西はトルコ共和国まで、北はシベリアまで、すべてがアジア、いやユーラシアである。ユーラシアに21世紀の日本の戦略的希望がある、と私は信じている。

【主な研究業績】

受賞歴：
第十四回司馬遼太郎賞（2009）、第30回大同生命地域研究奨励賞(2015)、第十回樫山純三賞(2015)。

外部資金獲得状況：
科学研究費補助金基盤研究（C）「アルジャイ石窟１号窟出土モンゴル語古文書に関する歴史人類学的研究」(2003-2004)、科学研究費補助金基盤研究（C）「モンゴル族からみた中国文化大革命の実証研究」(2007-2008)、科学研究費補助金基盤研究（C）「社会主義中国におけるエスニック・ジェノサイドに関する実証研究」(2010-2012)、科学研究費補助金基盤研究（C）「ウイグル族・朝鮮族・チワン族の文化大革命に関する実証研究」(2015-2017)。

委員等：
科学研究費委員会専門委員（2008-2009）。

学会等：
日本モンゴル学会理事、日本文化人類学会評議員(2015-2016)。

著書・論文：
1）『チベットに舞う日本刀―モンゴル騎兵の現代史』、文藝春秋、2014年11月.
2）『墓標なき草原―内モンゴルにおける文化大革命・虐殺の記録』(上・下、2009年、続、2011年).
3）『日本陸軍とモンゴル』、中公新書、2015年11月.